● 読書感想文コンクール 小学校 1･2･3 学年 の部●

入選

伊藤　万紘（いとう　まひろ） 松枝小 ２年生

作品名：たいせつなきみ
図　書：たいせつなきみ

ぼくは、『たいせつなきみ』を、読みました。このお話は、ウイミックスという小さな木の小人の村にすむ、パンチネロという小人の話です。

この村では村人たちが、金ぴかのお星さまシールと、みにくいはい色のだめじるしシールをくっつけ合ってくらしていました。

きれいなツルツルツルの小人たちやかわいい小人たちや、さいのうがある小人たちには、ほかの小人たちがたくさんお星さまシールをつけていきました。だけど、ぶきっちょな小人や、パンチネロは、いつもしっぱいした時に、だめじるしシールをつけられました。

だめじるしシールがたくさんたまると、パンチネロは、外に行く時も心配になりました。

ぼくも、シールはついてないけれどサッカーチームに、はじめて行く時は、まわりの友だちが、みんなすごくうまくて、自分はいつも心配でドキドキしていました。

すぐうまくなりたかったけど、全ぜんうまくいかなかったです。そんな時は、パンチネロの気もちがよくわかりました。

ある日パンチネロは、お星さまもだめじるしもつけてないウイミックスに会いました。ルシアといいます。パンチネロが、ルシアに、どうしてシールが何もついていないのか知りたいと思って聞くと、ウイミックスを作った、エリという人に毎日会いに行くといいと教えてくれました。エリはパンチネロに、「ほかのウイミックスがどう思うかはたいしたことじゃないんだ。みんな、お前と同じウイミックスじゃないか。わたしは、お前を大切に思っている。」と言いました。パンチネロは自分が大切だと思えなかったけれど、エリの言うことが本当だと思った時に一つのだめじるしシールが地面におちました。ぼくはこのばめんが好きでした。なぜかというと、自分もサッカーでしっぱいした時に友だちがドンマイとか、元気づけてくれたりすると、すごくうれしくなります。パンチネロもエリに大切だと言われて自分がしん

じられるように、少しなりました。
　だからぼくも、自分や、友だちに元気づけるような、言葉を、かけたいです。エリみたいに自分のことも、人のことも大切にしたいです。